

いの流水俳壇

友草 水月選

「当季雑詠」

手足出て温くなりたる蝌蚪の水

間 浩太

（評）早春の田んぼの水も温かくなり、おたまじゃくしも手足が出て賑やかに泳いでいるが、やがて蛙となつて地上生活になるだろう。季語の蝌蚪の蚪も蚪も杓子の形をしたものの意でおたまじゃくしのことであり蛙の幼生である。幼生のときはエラ呼吸であるが陸に上がるころには肺呼吸となる。最近の蝌蚪という言葉はあまり使われなくなつた。

村上 鬼城

もう少し生きてみようか水温む

小野川町子

（評）何かやかと生活も厳しく世知辛い世相だが水も温み暖かくなつた。この世も捨てたものでもない。少し元氣を出して生きてみようかと思う作者である。多くは望まないが生き甲斐のある充実した日々を送りたいと願っているのである。作者は川柳も詠まれており、この句も機知とユーモアの世界が見える作品である。

吉野 義子

前山の寝釈迦にも似て遠霞

片岡 包女

（評）前にある山が丁度お釈迦さんが寝ている姿に似ており、霞がかかつてその中に横たわっているように見える。春になると水蒸気が立ち込め空の色、

野面や山など遠くの物が霞んで見える。また横に筋を引いた柵引く霞も生じる。霞は春を代表する季語で春霞、朝霞、遠霞、柵霞などがある。
○春なれや名もなき山の遠霞

松尾 芭蕉

北山の雪の嶺はるか苗木植う

森岡 照月

（評）企業や団体が山の治水や河川の涵養のために植林事業を進めている。作者は横倉でのこの作業に参加したのである。横倉山には宮内庁管理の天皇御陵参考地がある。その霊峰を仰ぎながら苗木を植えたのである。

「苗木植う」は春の季語で植物が芽を出す前の三月ごろが良い時期である。かつては杉・檜などの植林増産は推進事業とされたが、安い外材に押されて手入れをしない山林が放置され、山は保水力を失い、山崩れや洪水の被害が出て自然崩壊につながつた。こうした植林事業はなくなつた。
○苗すでに北山杉の容かな

城戸崎円花

二句抄

やわらかに芽ぶき促す雨の糸

刈谷 志津

浅学の辞書手放せぬ梅真白

大川 節弥

出番なき雛昔の夢を見る

竹崎たかひろ

何処へか流離の旅を流し雛

國田 貞子

啓蟄へビノキオの鼻少し伸び

川村 博子

身振いの花の揺れいる床り寒

田鶴恵美子

春一番児等の落語に吹きあれし

津田 久美

春浅し交わす二人の呼吸白し

間 浩太

薄ら日の空はいつしか春の色

西日背に中腰しばし春の土

春浅し菜園に人見当たらず

桜餅若き僧侶の声清し

天空の霞しままに晩れにけり 片岡 包女
春宵の程よきメロデー聴いており 小野川町子
食の虫動き回って山笑う 森岡 照月
芽木零待つとはなしに待つ間合い 友草 水月
桜芽木枝を鳴らして蕾解く

名句鑑賞

菜の花や月は東に日は西に

水月

この句は蕪村の代表的な秀句と言われ、分かりやすく多くの人に知られている。蕪村は今の大阪の人で約二三〇年ばかり昔の俳人である。

昔はいたる所に菜の花畑があり、この菜の花の種から菜種油を取り食用油はもとより、昔は行燈用としてたくさん使われていたのである。

この句は広い平地で目の届く限り地の果てまで続く菜の花畑が広がっている。夕方になると西の空に落ちてゆく太陽、東の空にはほの白い月が昇り始めた。自分のまわりには菜の花が咲き乱れており、まるで黄金の絨毯を敷きつめたようである。やがて日が落ちて白銀色の春の夕暮れとなり紫に暮れ切っていく、そして月は中天に昇っているという大きな写実の風景の句である。

かつていの町でも「ふれあい菜の花まつり」として沖田イベントがあり町内外から多くの人が訪れていた。何回かいの俳句会も吟行句会をし、是友公民館で多いときは三十人くらい集まり賑わつたものである。なくなつたのは残念である。

次題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月5日

投句先
教育委員会事務局
いの町1700-11
☎893-11922

平成26年度 こども川柳年間優秀作品

最優秀

卒業は 喜ぶけれど みながなく

川内小 6年 宮脇 佳凜

【評】成長過程の区切りとして卒業がある。何ともあれ嬉しいことであるのだが、いろいろの別れがついてくる。学校、先生、友達などいろいろの別れを思えば、涙が先ず友達などという6年生の気持ち、素直によんだ川柳に胸を突かれる。また、川柳の奥の深さが伝えられる。

優秀

春が来た 一つ大人に 仲間入り

伊野南小 5年 谷岡 美咲

【評】春夏秋冬と季節は変わっていく。冬が終って春へと年を重ねながら、大人へと成長していく自分の姿を、見つめ続けている小学5年生がとても頼もしい。川柳を通しての素敵な大人への成長が待ち遠しい。

さくらの木 春にさく花 じゅんび中

枝川小 3年 古味あかり

【評】冬のさくらの木をよんだ川柳だと思つ。子どもの感性、豊かな観察に驚かされる。大人への成長が待たれる。

入選

げんかんは おうちのかおだ きをつけろ

川内小 2年 よこばたけゆう

たのしいな 本のせかいに 行きたいな

伊野小 5年 山崎ひろとし

ゆめのほし きぼうとみらい いののまち

伊野小 4年 田村 せな

いじめはね ひとのこころを きずつける

川内小 3年 坂本 心あ

りんしゃ まだまだれんしゅう たりないよ

長沢小 4年 黒石 香里

陸上で つかれた足に ありがとう

枝川小 5年 篠藤 拓真

あいさつは 人の心を 動かすよ

川内小 5年 田村 将寛

・「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。27年度初回提出締め切りは5月8日(金)です。たくさんの皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。